

2021年3月期に最終損益が改善する日本企業はどこか。改善額の大さき3月期企業(約1480社、金融、決算期変更などを除く)をランキングしたところ、上位に目立ったのは石油や鉄鋼だ。前期に減損など多額の一過性の損失を計上した反動からの増加となるが、利益水準はコロナ前の平時に程遠い。

今回のランキング対象の企業で増益または黒字転換を見込む企業数は全体の34%、66%は悪化か横ばいを見込む。最終損益の合計額は前期比30%減になる見通しだ。

「戦後最悪の危機に突入している」。改善額で首位となった丸紅の柿木真澄社長の危機感はおお強い。約4000億円の減損損失を計上して19

## 今期の最終損益改善額 石油や鉄鋼上位

# 利益水準 コロナ前に遠く

2021年3月期に損益が改善する企業

順位	社名	最終損益の改善額	最終損益
1	丸紅	2,974	1,000
2	日立製作所	2,474	3,350
3	ENEOSHD	2,279	400
4	JFEHD	977	▲1,000
5	三井E&SHD	862	0
6	レオパレス21	722	▲80
7	三菱マテリアル	628	▲100
8	武田薬品工業	477	920
9	コスモエネルギーHD	426	145
10	日本電産	399	1,000

2021年3月期に損益が悪化する企業

順位	社名	最終損益の悪化額	最終損益
1	トヨタ自動車	▲13,461	7,300
2	三菱商事	▲3,353	2,000
3	三菱自動車工業	▲3,342	▲3,600
4	住友商事	▲3,213	▲1,500
5	ホンダ	▲2,907	1,650
6	三井物産	▲2,115	1,800
7	日本郵政	▲2,037	2,800
8	大和ハウス工業	▲1,286	1,050
9	パナソニック	▲1,257	1,000
10	三菱電機	▲1,218	1,000

(注)単位億円、▲はマイナスか赤字、21年3月期の会社予想の最終損益を開示している企業が対象(金融、決算期変更などを除く)。日経NEEDS調べ、短信ベース、14日時点

74億円の最終赤字となった前期から一転、今期は1000億円の黒字を見込む。それでもコロナ影響の無い19年3月期実績と比べると4割程度の水準だ。古谷孝之最高財務責任者(CFO)は「財務責任の再生・強化を最優先課題とし、資産の優劣や戦略的入れ替えを良化や戦略的入れ替えを」

20年3月期は新型コロナウイルスの感染の広がりや飛行機や車などを使った移動が減り、航空機用ジェット燃料やガソリンの需要が急減した。原油価格の急落で石油元売りは在庫評価損を計上。原油開発権益の減損処理も迫られ

74億円の最終赤字となった前期から一転、今期は1000億円の黒字を見込む。それでもコロナ影響の無い19年3月期実績と比べると4割程度の水準にとどまる。中国勢の増産攻勢で採算が悪化している鉄鋼はさらに苦しい。JFEホールディングスや神戸製鋼所は今期も2期連続の赤字となりそうだ。製鉄所の補修費や労務費の削減を中心に今期は前期に比べて1000億円のコスト削減を目指す。純利益は11%増える見込みだ。

市場では銘柄の選別が進んでいる。昨年末と比べて騰落率を見ると、日本電産(17%高)、東京エレクトロン(16%高)と好調な一方、丸紅(30%安)、ENEOS(18%安)とコロナ耐久力で明暗が分かれている。

21年3月期に最終損益が悪化する日本企業では、自動車メーカーの苦戦が目立っている。減損額が最も大きいのはトヨタ自動車で、純利益が前期比で1兆3461億円減る見通し。三菱自動車も販売減少で赤字が3600億円に拡大する。

詳細なランキングを電子版マイケットにQRコードを読み取ると表示されます。